

ご存じですか！文化財

「大福寺板碑」

43

市指定有形文化財
昭和56年12月2日指定



問合せ
生涯学習課
(☎0480-62-1221)



所在地 内田ヶ谷741 大福寺

今回、ご紹介するのは「大福寺板碑」です。

板碑は、鎌倉時代から室町時代にかけて盛んに造られた石製の供養塔です。当地方では、荒川上流(長瀬付近)で取れる青石(緑泥片岩)を材料として、青石塔婆とも呼ばれます。大福寺(内田ヶ谷地内)には14基の板碑が現存し、そのうちの9基が境内にまとめて立てられています。

これほど多くの板碑があるのは、平安時代末期、道智氏(道地内に居住)の一族の多賀谷氏が、この周辺に館を構えたことによると思われます。多賀谷氏は武蔵七党の野与党に属し、源頼朝の上洛の随兵や弓始射手として活躍

しました。周辺には、寄居・タテヤマなどの館に関する地名が残っています。

境内に並ぶ中央の一番大きな板碑は市内最古のもので、鎌倉時代前半の天福2(1234)年造立の大日種子板碑です。正面に梵字(古代インドの文字)で胎藏界大日如來の種子を刻み、月輪で囲まれています。

このほか、阿闍如来種子を刻んだ板碑や、武士などの名を連ねた交名板碑など貴重なものがあります。

明日の命をも知れない戦乱の世にあつて、せめて死後の世界は極楽浄土へと願う人々が、こうした板碑を造立したのかもしれない。

